

耐震工法にかかる提案内容

(後藤治氏協議の際にいただいた提案_D 案 (負荷分散) に関連)

(1) 耐震補強：天井面と足元を固め、水平力を分散(壁面の改変を最小化し、窓を残す)

- 屋上を鉄骨で面的に固めれば水平力が分散され、壁面補強(RC 壁)を大幅に軽減できる。
- 梁・基礎を鉄骨 (もしくは RC) で増打ちし、その間にブレースを入れる構成が考えられる。床は一旦撤去して基礎補強を行い、増打ち部に空調(床置き・床下吹出し)を組み込む。
- 照明・遮光スクリーン等の新設備は補強材側に仕込み、既存躯体への負担と改変範囲を最小化。解体範囲の最小化は、文化財保護と事業費抑制の両面で有利。
- 弱い後方側 (講堂裏) の天井面を固めれば、建物全体のバランスが改善する。

(2) 屋組の調査が必要

- 大空間の屋根は RC 梁とは考えにくく(スパン限界を超過)、鉄骨トラス又は SRC 造の可能性がある。小屋裏を調査し確認した方が良い。鉄骨造であれば鉄骨補強がさらにに行いやすく、耐震計算上も有利になる可能性あり。

(3) 雨水対策

- 改修後も屋根の防水やり直しを繰り返すよりも、緩勾配の軽い屋根を架ける方が確実かつ安価で、外観への影響も小さい。天井面の構造補強と屋根架構を兼ねられる。
- 漏水の主因はアーチ窓上部(水切り無し)とドレン(排水管)の劣化。アーチ窓上部等への水切り設置で浸入量を相当減らせる。外観への影響は文化財的に良いか確認が必要。
- 外壁の爆裂は見た目ほど重症ではなく、水の浸入が止まれば進行は抑えられる。全面改修ではなく、傷んだなりに見せる方針でコーキング等でひび割れを埋めて固める方法でも良いと思われる。

(4) 内装・活用

- 既存スチールサッシは防錆塗装のうえ残置し、その内側に新サッシを設置(断熱・空調効率も向上)した方が良い。漆喰面は「漆喰クリーム」で補修可能。天井は落下防止(布・ネット)を講じ、場所によってはモルタルを外しコンクリート面を見せる形でも良い。
- カフェ活用案は、震災・防災・地域史関連書籍を置く「ブックカフェ」とすれば記念館の性格と合致できる。トークイベント等の拠点にもなり得る (参考:丹波篠山「月書房」)。

図1 耐震補強の考え方(概念図) — 天井面と足元を固め、水平力を分散(窓は塞がない) —

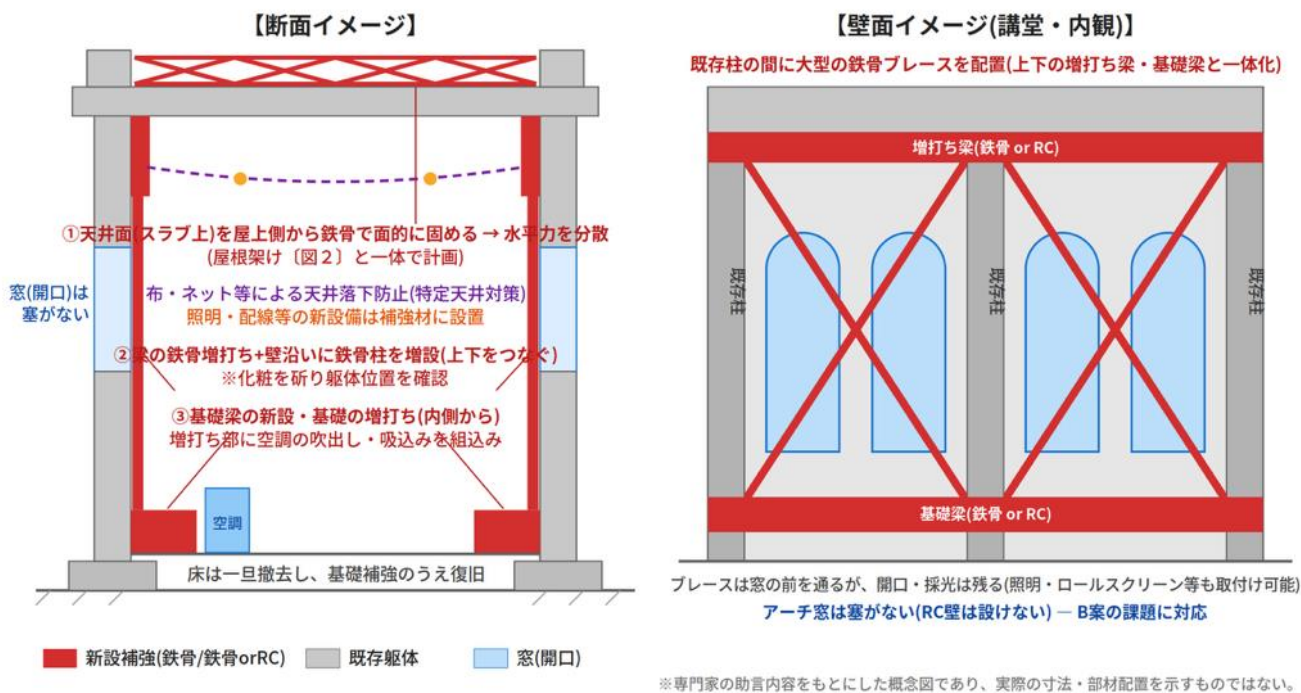


図2 雨水対策(長寿命化)の考え方(概念図) — 水の浸入を止め、劣化の進行を抑える —

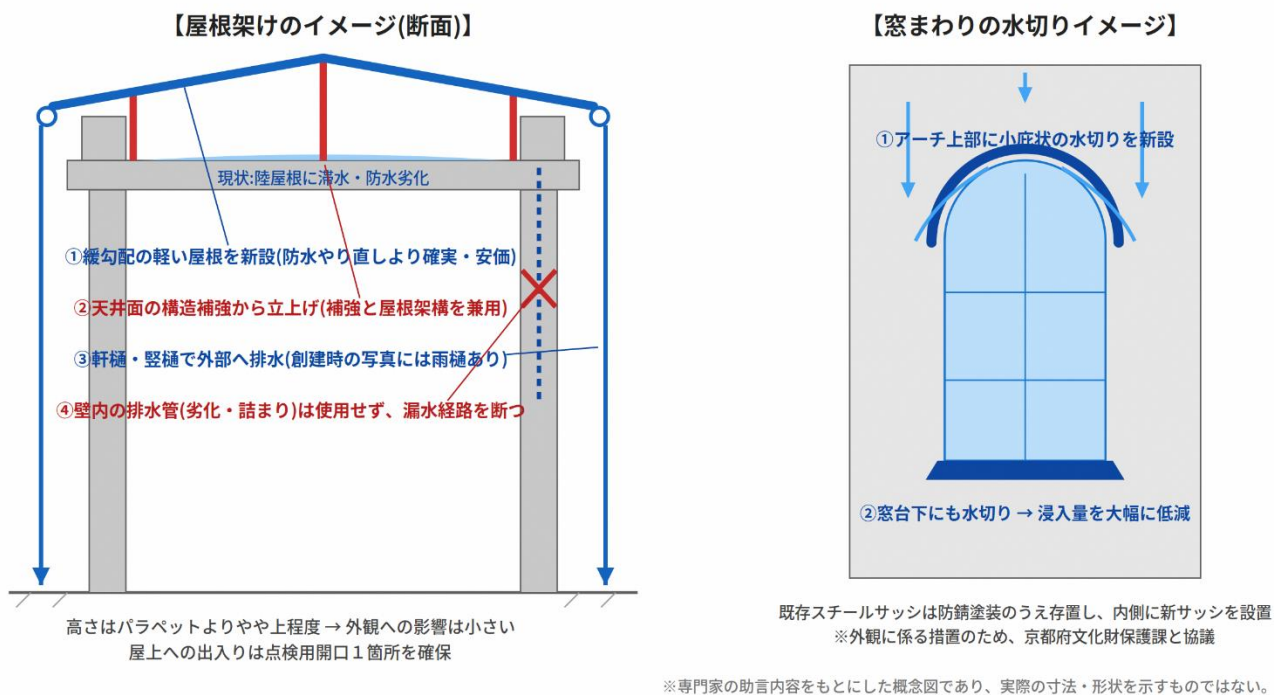


図 3

